

～小樽市銭函町～

①

第2次大戦が敗戦という形で終わり、日本はあらゆる生産機能を失った、復興のため、ま

ずは食料の確保のため農業、漁業、産業に力を入れ、さらに道路、鉄道、港湾の整備に重

点がおかれた。

昭和21年（1946年）、小樽（銭函）競馬場が、地方競馬法制定により、銭函大浜に競馬

場を造成した。（休止しているゴルフ場を利用して）。この競馬場は、札幌と小樽の間と

いう立地により、他の競馬場を凌ぐ売り上げを誇り、当時の駅前の旅館には大勢の人が宿

泊し、日曜日には列車で多くの人が銭函へ押しかけて競馬を観戦していた。この熱気もわ

ずか6年で終了し、競馬場が撤退した後、昭和27年（1952年）、小樽ゴルフ倶楽部が再建

されて、ゴルフ場が再開された。

復興が進み、昭和30年代に入ってから的发展はめざましいものがあり、銭函副港計画

構想がまとめられたり（石狩湾新港として実現する）、札幌間に工業地帯造成構想も立ち

上がり、銭函工業団地の造成が行われ多くの企業が操業を始めた。

昭和35年(1960年)、小樽市の人口が198511人、世帯数は45384世帯となり住宅

地不足がうかがわれ、昭和42年(1967年)、「桂岡地区宅地造成事業」が始まり、昭和47

年(1972年)まで367区画が造成され完売した。昭和49年(1974年)、430区画を造成

する「桂岡ニュータウン」の起工式が行われる、昭和55年(1980年)までに、およそ

1200世帯、3600人が暮らす大団地が誕生する。

昭和43年(1968年)、鉄道のみよりスピード化の目的で小樽・滝川間が電化され、蒸気

機関が減って、電車が多くを占めるようになる。

～小樽市銭函町～ ②

昭和46年（1971年）、札幌・小樽間の交通混雑を解消するため、「札幌バイパス」が一

般有料道路として完成し、物流、輸送のスピード化が図られるようになった。

昭和48年（1973年）、石狩湾新港の工事が始まる、小樽港との機能分担を図るため、

北海道、小樽市、石狩町の三社共同管理とし、石狩地区に建設した、これにより銭函副港

計画構想は消滅する。

昭和57年（1982年）、石狩湾新港が開港し、入船式も行われ、物流の移動も頻繁と

なり、新港の周辺に石狩工業団地、新港に近い銭函に工業団地を造成して、企業の製品

及び商品を港からと高速道路を使い全国に輸送する。

昭和59年（1984年）、銭函の玄関口である、銭函駅前広場が銭函土地区画整理事

業に一環として完成する、駅前が広々として、バスやタクシーの乗り入れがスムーズになり

駅のイメージアップにつながった。

昭和63年（1988年）で昭和が終わります。

錢函地区は、小樽にとって名前の発祥であると同時に、ニシンで活況を呈し、鉄道敷設

を克服して歴史に貢献してきた、小樽市内で最も広い平坦地を擁し、日本最大のカシワ樹

林を持つ、自然や歴史を対象とした まち である、海洋性気候で温暖で、気温の較差も小

さく、四季の変化に富み、台風の影響も極めて少なく住みやすい まち であると共に小樽

の産業拠点を有する まち へと変化して発展し続けている。

平成を超えて・・・・・・・・・・。